

令和6年度第5回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日時	令和7年3月24日(月) 13時02分～16時24分
開催場所	18階共用会議室なみき16
出席者	岡部委員長、六川副委員長、恵志委員、木村委員、宮尾委員、杉崎氏、菅野事業評価分科会議長
欠席者	野原副委員長
開催形態	一部非公開
議題	<p>1 審議事項</p> <p>(1) 令和7年度事業計画について</p> <p>(2) 令和6年度事業仮評価について</p> <p>(3) 創造界限形成事業の評価指標について</p> <p>(4) 令和7年度の委員会について</p> <p>2 報告事項</p> <p>BankART1929 との連携について</p> <p>3 その他</p>
決定事項	
事務局	<p>【開会】</p> <p>○令和6年度第5回横浜市創造界限形成推進委員会を開催する。</p> <p>【部長挨拶】</p> <p>事務局 ○開会にあたり、文化芸術創造都市推進部長永井より挨拶。</p> <p>【資料確認】</p> <p>事務局 ○配付資料の確認。</p> <p>【定足数の確認】</p> <p>事務局 ○続いて、定足数について確認する。本日、木村委員と宮尾委員はオンラインで参加しており、6名中5名が出席しているため、委員会運営要綱第6条第3項により成立となる。なお、野原委員は欠席。</p> <p>六川委員は都合により2時半頃退室予定。</p> <p>また、事業評価分科会の菅野議長も審議事項(1)、(2)、(3)に関連してオンラインで参加している。さらに、審議事項(1)に関連して、各拠点ディレクターの皆様も出席している。</p> <p>【会議の公開・非公開】</p> <p>事務局 ○次に、本会議の公開・非公開について確認する。横浜市の情報公開条例第31条により、審議会等の会議は原則公開だが、例外が認められている。本日の審議事項(1)令和7年度事業計画のうち旧第一銀行に関する計画と、審議事項(4)令和7年度委員会の星川駅行政区画の活用方針については、同条例第7条第2項に規定の非開示情報が含まれているため、一部非公開と考えている。委員の皆様、よろしいか。</p> <p>(了承)</p> <p>【議事録について】</p> <p>○前回の議事録は資料2として配布する。</p>

事務局 事務局	<p>【拠点ディレクター紹介】</p> <p>○最後に、今回の審議事項(1)のオブザーバーとしてディレクターの皆様を紹介する。</p> <p>初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点から山野様とハン様 象の鼻テラスから岡田様と大越様 急な坂スタジオから呉宮様と大平様 THE BAYSから山中様と矢野様 旧第一銀行横浜支店から鍵野様と竹内様 新高島地下1階展示施設から小川様</p> <p>ここから岡部委員長に進行をお願いする。</p> <p>審議事項（1）：令和7年度事業計画について</p>
岡部委員長	<p>○では、審議事項(1)令和7年度事業計画について、事務局から説明をお願いします。</p>
伊藤係長	<p>○今回、各拠点には令和7年度の評価シートを準備いただいているが、旧第一銀行と新高島の拠点についてはまだ内容を詰めている段階であるため、今回は事業計画の骨子を説明いただき、評価シートの内容については翌年度の委員会で審議する予定。</p>
岡部委員長	<p>○各拠点ディレクターから事業計画について説明をお願いします。</p> <p>初黄・日ノ出町の山野様からお願いします。</p>
黄金町	<p>○初黄・日ノ出町地区は、本年度と同程度の事業内容を検討している。アーティストインレジデンス事業では、長期・短期ともに増員を目指しているが、短期の海外アーティストの順番待ちが発生しているため、その受入れと新たな制作スタジオの入居者を増やす取り組みを行う。</p> <p>国際交流事業では、交換プログラムの希望団体が海外で増えているため、折衝を進め、既存の交換プログラム団体との関係性を深める。その他の海外協力団体は減る予定だが、今年度は海外カンファレンスへの出席が多かったため、その分を減らしている。</p> <p>展覧会・イベントでは、昨年は春と秋に黄金町バザールを実施したが、次年度は秋の1回を予定している。夏休みの子ども向けワークショップ「こどもバザール」も本年度と同程度の企画数を検討し、参加者数の増員を目指す。</p> <p>黄金町キッチンでは、現在週2回の運営をもう二、三団体増やす予定で、プロモーションを検討している。</p> <p>ブックバザール・カフェでは、日ノ出スタジオで古書店とギャラリーを継続的に運営し、書籍のオンライン販売の準備を進めている。</p> <p>カフェは新しい事業者が決まり、運営を進めている。</p> <p>バザールサポーターでは、活動回数は多かったものの、新しい参加者が増えない悩みがあり、次年度からガイドツアープログラムを検討している。</p>

	<p>岡部委員長</p> <p>象の鼻テラス</p> <p>岡部委員長</p> <p>急な坂スタジオ</p>	<p>地域との取組では、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会の事務局運営と地域交流拠点の運営を年間で実施する。地域住民のトークイベントや紹介展示も行き、近隣小学校との連携も進める。</p> <p>施設の維持管理では、設備の老朽化に伴う改修を進める。</p> <p>広報・発信では、海外からの取材や視察に対応できるよう、多国籍の言語による資料作りやスタッフの育成を行う。</p> <p>企業連携では、京急百貨店との関わりが増えており、共催やポップアップへの出展などの相談に対応する。</p> <p>○質疑は最後に全体で行う。</p> <p>次に、象の鼻テラスの岡田さん、お願いします。</p> <p>○運営方針は「創造都市とにぎわいをつなぐ1年間」とした。</p> <p>創造都市20周年を迎え、次のステップを見据えた重要な年である。クリエイティブとにぎわいを結束させ、最大効果を図ることを目指す。</p> <p>管理運営業務では、観光インフォメーションを市民ボランティア中心に運営する。また、インバウンド対応を強化し、施設の適切な改修計画を進める。</p> <p>広報活動はSNSを中心に取り組むが、工夫が必要。来場者数はコロナ前に戻っている。</p> <p>文化芸術事業では、バレエプロジェクト、国際交流事業、ギャラリーシリーズを継続し、プロムナード沿いの壁面を展示スペースとして活用することを検討している。</p> <p>まちづくり・賑わいづくりでは、象の鼻パークでFUTURESCAPE PROJECTを継続開催する。市民参加とプロフェッショナルなアーティストの協働を通じて、新しい公共空間の活用方法を探る。</p> <p>市民にとって身近な事業として、毎週末マルシェ、ダンス縁日、ワールドミュージックを開催する。SNACK ZOU-NO-HANAも不定期に開催し、Tokyo Gendaiとの連携も進める。</p> <p>連携事業では、港南区と鶴見区と協働し、鶴見区でのパブリックアートプロジェクトを継続。フィンランドのオウルとの連携も視野に入れている。</p> <p>多様な市民参加として、スローレーベルとの取組を継続する。横浜市や他団体との協働も積極的に行う。</p> <p>カフェ運営では、ゾウノハナソフトが人気商品で、新メニュー開発に取り組む、より良いサービスを提供するために努力する。</p> <p>以上。</p> <p>○急な坂スタジオの呉宮さん、お願いします。</p> <p>○急な坂スタジオは令和7年度より大幅な体制変更を行う。現館長の加藤弓奈が退任し、新代表理事は大平勝弘、施設長は持田喜恵が務める。私は引き続きプログラム・ディレクターを担当する。スタッフの人員配置を見直し、柔軟で風通しの良い運営を目指す。</p>
--	--	---

		<p>令和7年度の事業計画について、専門人材の育成を中心にお話する。新体制のもと、上半期は運営の安定に注力し、舞台芸術の創造活動の支援と人材育成に取り組む。今年度は6年ぶりに新規サポートアーティストを募集し、国内外から92組の応募があった。その中から選出した橋本真那（ダンス）と集団ヒナワタ（人形劇）と協働する。</p> <p>創り手と書き手の交流プロジェクトも次年度の実現を目指す。異なる専門性を持つ人材が集まり、学び、交流する場として機能させる。オープンスペースの活用も視野に入れている。</p> <p>創造環境の整備と活動の支援では、相談窓口の設置や利用料の減免など、キャリア形成期や転換期にある人材を重点支援する仕組みを検討している。スタジオの稼働率向上を目指し、貸出し制度や予約システムを見直す。</p> <p>急な坂スタジオで創作された作品が国内外で発表され、新たな価値を生み出すこと、アーティストやスタッフが長期的に活動を継続できる環境を整えることが使命である。発表や上演の機能を持たないため、市内の他機関や施設と積極的に連携し、人と知の循環を生み出す。市民が文化芸術に触れる機会の創出にも取り組む。学校向けワークショップや職業体験の受入れ、教育普及事業を通じて、次世代を担う子どもや若者が多様な文化芸術を体験し、理解を深める機会を提供する。</p> <p>岡部委員長 ○THE BAYSの山中さん、お願いします。</p> <p>THE BAYS ○THE BAYSの報告は私、矢野からさせていただく。 まず、社内の話になるが、THE BAYSを管轄する部署が変わったので、先に紹介させていただく。</p> <p>THE BAYS ○THE BAYSの担当をさせていただく、野球普及・振興部の部門長となった山中です。本日は何とぞよろしく申し上げます。</p> <p>THE BAYS ○引き続き窓口は私が担当する。 令和7年度の計画についてお話する。本拠点における創造的人材及びクリエイターは、アーティストや芸術部門にとどまらず、スポーツを通じて都市のにぎわいや創造性を喚起する多様な属性の人々と位置づけている。</p> <p>事業報告シートの令和11年度に目指す姿に向けて、令和7年度では以下の2つの目標事業方針を立てた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールアカデミーによる人材育成プログラムの拡大 ・様々な連携先とのコラボ商品や企画の増加 <p>評価軸として、多様性とバリエーションに関して2つの軸を設けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材の集約・育成のきっかけづくり： 小学生から大人までスポーツビジネスに触れるステップアップの軸を作る。 <p>大通り商店街や関内外の企業と連携して運営する。</p>
--	--	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・横浜のまちにしみ出す： 試合日以外の観光ツアーや創造界限拠点を生かすイベントを企画する。 波及効果・インパクトとして、以下の3つの軸を立てている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ +Bショップ： 他球団やNLBとのコラボを増やし、新規顧客を狙うためにアーティストやキャラクター、作家とのコラボを増やす。 ・ &9レストラン： 季節ごとの施策を広げ、球場とのイベントとのコラボを行い、オープンテラスを活用する。 ・ 地下1階スタジオ： スクール事業グループが運営し、子ども向けレッスンや大人向けヨガプログラム、ランニングプログラムを増やす。 <p>詳細の回数は事業報告書に記載している。</p>
<p>岡部委員長 新高島駅</p>		<p>○新高島駅地下1階展示施設の報告を小川さん、お願いします。</p> <p>○新高島駅地下1階展示施設を運営する一般社団法人Ongoingの小川です。</p> <p>まず、スペースの名前であるが、Art Center NEWという施設名になった。4月1日にプレスリリースで公表する。私どものスペースも4月1日から施工が始まり、4月は通路側、5月からはBankARTさんが使っていたギャラリー部分の施工を行い、2か月間でオープン準備を進める。</p> <p>5月31日に内覧会を開催し、6月1日から1か月半、オープン記念の展覧会を企画している。作家たちも決定し、準備を進めている。</p> <p>8月は音楽ライブやパフォーマンス、映像上映などの単発イベント月間を企画している。9月はTokyo Gendaiさんの開催と同時に、Art Center NEWでもアートフェアを企画している。東アジア、東南アジアのオルタナティブスペースを招き、アートフェアを開催予定である。ただし、Tokyo Gendaiさんから「アートフェア」という言葉を使わないよう指示があり、実際はアートフェアであるが、別の名称で開催する。</p> <p>10月は、大学卒業後15年までの若手作家と中堅以降の作家の公募展を同時開催する。11月はゲームをコンセプトにした展覧会を企画中で、みなとみらい21のゲーム企業との協賛や共催プログラムを検討している。12月はYPAMが使用予定で、1月から3月は大学の卒業展として使用する予定。</p>
<p>岡部委員長</p>		<p>○ここから質疑応答と意見交換に移る。審議事項(1)について、ご質問やご意見があればお願いします。</p>
<p>六川副委員長 黄金町</p>		<p>○まず、初黄・日ノ出町のカフェの営業時間はどのような感じであるか。</p> <p>○基本的には日中の11時から18時までの営業時間である。</p>
<p>六川副委員長 黄金町</p>		<p>○広報の発信についてであるが、対象はどこに向けて発信しているか。</p> <p>○基本的にはSNSでの発信がメインで、特にInstagramに重きを</p>

		置いている。若い方や海外のアートに関心がある方に向けて発信している。
六川副委員長		○象の鼻テラスの利用者が増えているとのことだが、トイレ関連の改修工事は計画されているか。
象の鼻テラス		○トイレは、頻繁に小さな故障が続くため、対処療法的に対応している。その他、施設の裏側で雨漏りの問題もあり、対応をお願いしている。市の財政の協議の中で優先順位をつけて進めている。
六川副委員長		○ダンス系が結構コラボレーションしているが、どこかの先生とコラボしているのか。
象の鼻テラス		○現在、フランクフルトで活動してきたダンサーの安藤洋子さんをインストラクターとして、ワークショップを継続的に開催している。本来であれば、成果発表の機会も持ちたいのだが、施設の性格上難しい点や費用の問題がある。
六川副委員長		○分かりました。あと、THE BAYSについてであるが、スポーツタウン構想の一環として期待されている。いろいろなコラボレーション企画があるようだが、主催ゲームというのは年間60ゲームしかないのではないか。
THE BAYS		○70ゲーム。
六川副委員長		○70ゲームか。それ以外のところとおっしゃっていたが、音楽のイベント等、いろいろ構想は、過去の経験も含めて持っているのではないかと。三井不動産の新しい施設とのリレーション等も考えているか。
THE BAYS		○ベ이스ターズとしては、THE BAYSとどこまで一緒にできるかを検討している。イベントのアウトプット先としてTHE BAYSの場を使うことなどを考えている。
六川副委員長		○話が変わるが、「あぶない刑事」のフィルムコレクションであそこを使ったことがある。知っているか。
象の鼻テラス		○いえ、知らない。
六川副委員長		○「あぶない刑事」は見たか。
象の鼻テラス		○見ていない。
六川副委員長		○見ていないのか。そういう発信もある方向であってもいいのではないかと。思う。
THE BAYS		○撮影にも結構使われるので、うまくPRできたらと思っている。
六川副委員長		○分かりました。私からは以上である。
恵志委員		○フォーマットの話で、今年新しく事業評価シートを共通フォーマットにしたということだが、各位の書きぶり違う感じになっている。象の鼻テラスが柱を左側に追加して新しく立てているようなものが必要かもしれない。アクティビティの捉え方で書き方が変わってしまっている。 共通のフォーマットをつくる目的は評価を全体的に見やすくすることだが、有効になっていない。事務局で調整し、次年度の最後の評価の

		<p>ときには、同じような柱の立て方と見え方にして欲しい。事業計画案は詳細が分かるとしても、この表で軸と成果が分かるようにして欲しい。</p>
野口課長		<p>○承知しました。おっしゃるとおりかと思う。我々もまずは一旦つくってみるといところで今日に至ってしまった。改めて全部を見通して、恵志委員がおっしゃるとおりかと思うので、この後もう少し調整しながら年度を進めてまいる。年度末にはできるだけ合うようにしたいと思う。</p>
岡部委員長		<p>○今、黄金町さんとTHE BAYSさんが、THE BAYSさんは試合以外のときに色々やろうとしているという話の中で、ツアーがあると思うが、それぞれどんなツアーか。</p>
THE BAYS		<p>○まだ詳細は詰められていないが、過去にはTHE BAYSをスタートとして象の鼻テラスまでランニングし、そこでヨガプログラムを行い、走って帰ってくるプログラムを実施していた。試合日の需要が高かったためそちらに注力していたが、安定してきたので各拠点回るランニングプログラムと組み合わせて実施したいと考えている。</p>
黄金町		<p>○もともとサポーターのまち歩き班が日ノ出町から黄金町間のまち歩きをしながら、まちの歴史や湧水の説明をするガイドツアーを行っていたが、コロナ禍で中断した。中心だった方が高齢になったため、新しい人を増やし、語り継いできたまちの歴史をみんなで継承するガイドツアーを考えている。まちの歴史やアートを案内するツアーもサポーターの興味関心に沿って考えている。</p>
岡部委員長		<p>○令和7年度の事業計画の中で、ツアーが幾つかあり、発信の仕方を黄金町は得意だと思うが、THE BAYSと黄金町が同じような発信の仕方を事務局側でも考える必要があると思った。Art Center NEWの営業日や休館日のイメージはあるか。</p>
新高島駅		<p>○水木を休みにし、横浜美術館の休館日に合わせて週休2日にする予定である。</p>
岡部委員長		<p>○オンラインの木村委員、宮尾委員はいかがか。</p>
宮尾委員		<p>○各拠点の細かい話でも大丈夫か。質問や意見は全体を通してという意味か。</p>
岡部委員長		<p>○どちらでも大丈夫である。</p>
宮尾委員		<p>○先ほど少し話に出た広報活動についてである。それぞれの活動の目的や内容が違うので、全く同じ発信は必要ないと思うが、連携することがあれば広報戦略を共有し、相互送客を狙うべきだと思う。例えば、象の鼻テラスのSNSの話が出たが、ブランディングとして場所の特徴や目指すことをしっかり発信し、コンテンツの発信方法を相互送客することが重要である。事業計画の先にそういったことを皆さんが用意していると思うので、連携して盛り上がりを創出できるのではないかとと思う。</p>

木村委員	○宮尾委員と似た印象であるが、Art Center NEWの事業計画について、ターゲットに想定している主な利用者層と、それに対する広報計画について教えていただけるか。
新高島駅	○ありがとうございます。基本的には20代、30代のアート、芸術、文化に興味がある層に響く広報を考えている。SNSを中心に広報活動を行い、若者向けや子ども向けのワークショップ、ブックフェア、マルシェなどを企画している。最初の展示会は現代アートを紹介するもので、20代、30代をターゲットにしている。企画によって広報の対象を変えていく予定である。
木村委員 永井部長	○ありがとうございます。一旦私のほうからは以上である。 ○広報関係は強化すべきという意見があり、創造都市全体のパンフレットを作成中である。個別のPRも重要であるが、全体で示すことも重要なので、効果的な広報をしていきたいと思う。 そういったことでも周知を図りたいと思っている。個別のPRも重要であるが、全体で示すことも重要なので、効果的な広報をしていきたいと思う。
杉崎氏	○オブザーバーの杉崎です。 まちづくりの視点で質問する。THE BAYSについてであるが、旧市庁舎との開発や大通り公園の開発も決まっている。大通り公園、旧市庁舎、THE BAYS、象の鼻は緑の軸線と海までの軸線でつながっているので、その連続性における役割についてどう考えているか
THE BAYS	○山中から回答する。DeNAベイスターズ、本社のエリアマネジメント部隊、横浜スタジアムの3者で定例会議を設け、情報共有を進める。まちのにぎわいをつくる動線を目的に情報交換と創発の場所を用意する。具体的なスケジュールや内容は未確定であるが、進捗があれば共有する。
杉崎氏	○ありがとうございます。岡田さん、象の鼻との連携をお願いします。
象の鼻テラス	○はい。
杉崎氏	○黄金町についてであるが、大岡川、中村川の運河の活用が動き始めている。これまでは初黄のエリアに栈橋があり、先駆的に実験プログラムやアートプロジェクトを行っている。水辺の活用について、黄金町としてどう考えているか。
黄金町	○SUP倶楽部や川の駅運営委員会が栈橋の管理をしている。川辺にアート作品を並べるなどのアプローチはまだであるが、昨年から運河チャレンジというイベントを行い、地域の運営団体との連携を強めている。
杉崎氏	○重要な取り組みなので、ぜひ推進してほしい。
岡部委員長	○教えてもらいたいのであるが、各拠点で連携しているか。意見交換や情報交換の場はあるか。
象の鼻テラス	○かつてはディレクターズミーティングで情報共有をしていた。課題を共有できる場であったが、今後どうするか考えている。風通しがよく

		なり、古いクリエイティブシティ・ヨコハマのことを知っている人たちにとっては重要であるが、新しいプレーヤーには何のことやらという部分もあるので、共有しながら解を出す機会が必要である。
岡部委員長		○初めからある拠点と新たな拠点、企業が入っているので、風通しを考える必要があると思う。
六川副委員長		○委員長がおっしゃるように、過去にはディレクターズ会議で施設間のコミュニケーションを図っていたが、自然消滅してしまった。どこかが主導しないといけないと思うが、市ではないので、象の鼻が主導するなどのきっかけづくりが必要かもしれない。新しいメンバーも入ってきたし。
象の鼻テラス		○委員会の顔ぶれも刷新されたので、委員の方々とも情報交換したい気持ちがある。
岡部委員長		○もちろんである。その場に僕らも行ければいいと思うので、検討してほしい。
野口課長		○我々もその場があったほうがいいと思うし、次のトリエンナーレに向けても拠点との連携を強化したいという話も出ているので、市が音頭を取るか拠点が主導するか、相談させてほしい。
岡部委員長		○では、審議事項(1)について了承ということできたいと思う。各拠点のディレクターの皆様、本日はありがとうございました。 (拠点ディレクター退室)
六川副委員長		○評価シートの話であるが、もう少しシンプルにしようという話があったような気がする。計画にはいろいろ書き込んでいただいているが、評価シートは項目も増えて、もっとシンプルにしたほうがいいと思う。クリエイティブシティ・ヨコハマのことを分かっている人がどのくらいいるのか。中田さんのときの施策で、市長も代わっているので、これを基に施設が運用されてきた経緯がある。クリエイティブシティ・ヨコハマはいい言葉だと思うが、いつの間にか創造界限何とかという言葉に変わってしまい、わけが分からなくなってしまった。拠点がまさしくここにあるので、運営されている方々がどの程度理解しているのか気になった。
野口課長		○分かりました、ありがとうございます。その辺も共有していく。評価シートも一旦つくってみたが、難しいところもあった。実際事業を進める中で見直しや、来年度に向けて適宜修正を加えながら進めたいと思う。
永井部長		○我々としては、何のためにこの創造都市施策をやっていて、創造界限拠点はそれぞれ役割、機能も違うが、何のためにやっているのかを明確にしたい。ぼけてしまうと好き勝手なことをやってしまうので、横浜市から補助金も出している以上、共通理解を持って事業を進めてもらいたい。細かくなり過ぎると見えなくなるので、共通の理解をしつ

岡部委員長	<p>かり押さえつつ、もう少し考えていく必要があるかもしれない。</p> <p>○細かくなると細かい質問になって、本質を見失いそうである。簡略化された資料があったほうが、クリエイティブシティの本質的な議論に近づくかもしれない。</p>
永井部長	<p>○今年度から拠点ごとの分科会を廃止し、本委員会で評価シートを見ていただき、評価していただき、事業計画も確認いただく流れにした。それぞれ委員の皆様を担当の拠点を持っていただくので、細かい話をやりつつ、集約する形で本委員会では全体の話をする役割分担ができると思う。</p>
恵志委員	<p>○表にアウトプットの数値目標等が記載されていると、情報が多くなり読み取りにくくはなるが、アウトプットやアウトカムを数字で把握するのも重要だ。削って簡素な表にすると後から、数値の表も別に欲しいということになりかねない。情報が多くなっても数値を入れて1枚の表で一元管理できる方が良いと思う。削るよりも、細かくなってもわかりやすい表の形を検討するのはどうか。具体的には柱立てがされていればいいと思う。御検討ください。</p>
野口課長	<p>○ありがとうございます。</p>
<p>審議事項（2）：令和6年度事業仮評価について</p>	
岡部委員長	<p>○では、審議事項(2)令和6年度事業仮評価について、事務局から説明をお願いします。</p>
伊藤係長	<p>○今年度の評価シートに関しましては、既に拠点の皆様へ実施結果と自己評価を御記入いただき、その上で事業評価分科会で議論を行った。事務局が意見をまとめ、委員会評価と総評に反映している。本日は、委員会評価のポイントを絞って説明する。</p> <p>BankART1929について、次年度の運営事業者としては不採択となったが、クラウドファンディングにより事業継続と退去を同時に実施できる見込みである。ネットワークの蓄積が支援を得る要因となった。創造性／政策達成評価では、周辺企業や地域とのネットワーク構築が進み、連携企業や団体が増えている。総評として、創造都市政策のフロントランナーとして横浜のイメージを築き上げたことを高く評価している。</p> <p>初黄・日ノ出町文化芸術拠点について、外国人スタッフの採用や専門業種の人材の多様性が評価されている。創造性／政策達成評価では、海外で評価された若手アーティストを受け入れ、交流国が広がっている。地域や企業等と連携した事業運営では、イベント開催やワークショップを通じて地域にアーティスト市民が生まれている。産業の振興が暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開では、NPOの取組により地域の担い手が育っている。総評として、AIRの拠点として海外から高く評価され、世代交代後も事業が途切れずに発展することを期待している。</p>

		<p>象の鼻テラスについて、安定的な運営が評価され、観光振興にも寄与している。創造性／政策達成評価では、パブリックスペースの活用が進化し、都心部へのアプローチが評価されている。総評として、質の高い取組と郊外部でのプロジェクト展開が評価されている。</p> <p>急な坂スタジオについて、安定した運営を目指し、稼働率が戻らない原因を調査することが提案されている。創造性／政策達成評価では、情報発信を活発にし、舞台技術情報が集まる場所になることを期待している。総評として、新ディレクターへ交代し、若手サポートアーティストの育成に注目している。</p> <p>THE BAYSについて、スポーツ×クリエイティブのテーマで文化財を活用し、認知向上につながったことが評価されている。創造性／政策達成評価では、スポーツ×クリエイティブの展開や他の拠点との連携が期待されている。総評として、現在のニーズに合った取組が評価され、クロスインダストリーな取組や公共空間の活用が期待されている。説明は以上である。</p> <p>岡部委員長 ○本日は、事業評価分科会の菅野議長にも御出席いただいているので、何か補足があればお願いします。</p> <p>菅野議長 ○2月17日に開かれた委員会で議論した結果を反映している。今年度までの評価の視点や書きぶりが統一されていなかった点もあったが、おおむね高い評価を得ている。ただ、急な坂スタジオについては資料がそろわず、後日各委員に資料が送られコメントをいただく形になった。来年度の事業についても説明があったが、令和6年度までの各拠点の運営団体の尽力に敬意を表する。課題としては人材確保、資金調達、施設の維持管理などがあり、引き続き助言と支援をお願いしたい。特にBankART1929については、創造都市横浜を象徴する存在として約20年にわたり活躍してきた。クラウドファンディングで1000万円以上を達成しており、今後も横浜市と連携した活動を期待している。令和7年度からの評価シート及び創造界限形成事業の評価指標のロジックモデルが整理され明確になったが、最終形ではないため、各拠点、担当委員、横浜市と達成目標を共有しながらさらに練り上げていく必要がある。情報共有、成果の共有、発信力の共有のための話し合いも重要である。新しい団体も参加し、バラエティーに富んだ事業が展開されることを期待している。創造拠点のブランディングとして、スローガンやキャッチコピーを共有し、事業方針を団体と横浜市で共有する仕組みが必要である。</p> <p>岡部委員長 ○質疑、意見交換に移る。審議事項について、御質問、御意見等があればお願いします。</p> <p>恵志委員 ○今年度を振り返り、委員は評価だけでなく、相談役的な役割も担う必要があると感じた。拠点で何かあったときに第三者として委員に相談しやすい仕組み、委員が相談に乗りやすい仕組みが重要だと思った。</p>
--	--	---

岡部委員長	担当が振り分けられることで解決につながることを期待している。○
野口課長	ありがとうございます。これはこの後の話で。
岡部委員長	○おっしゃるとおり担当制にさせていただいて、コミュニケーションを取れるような形にできるといいと思っている。
野口課長	○前年度まではこれを基にディレクターの方々がプレゼンしていた。○前年度までは、拠点ごとに分科会が設定され、じっくり議論されていたが、今年は経過措置で取れなかったため、来年から改めて仕切り直しを行う。
岡部委員長	○木村委員、宮尾委員、いかがか。
宮尾委員	○この後の審議事項を伺った後で話したい。
木村委員	○私のほうも大丈夫である。
岡部委員長	○ありがとうございます。それでは、特に問題がなければ、審議事項(2)について、了承とする。
	審議事項(3)：創造界限形成事業の評価指標について
岡部委員長	○次に、審議事項(3)創造界限形成事業の評価指標について、事務局のほうから願います。
伊藤係長	○よろしく願います。お手元の資料5を御覧ください。昨年8月に第1回分科会を開催し、来年度の事業評価手法や評価シートの見直しを議論した。その後、委員会で2回議論し、本日準備したアジェンダとして、創造都市施策の目指す姿、ロジックモデルの整理、KPI の案について説明する。目指す姿については、社会課題の解決を目指し、にぎわい創出と地域コミュニティの活性化を重点課題としている。ロジックモデルでは、体験者の増加、遊休地の活用事例の増加、創造産業の増加を軸に整理した。市民や来街者の目指す姿として、創造的活動への興味・関心の広がり、他者との対話や交流機会の増加、活動の担い手としての意識の芽生えを挙げている。拠点の目指す姿として、新しい取組の実施、次世代のネットワーク形成、異分野との連携、遊休地の活用を挙げている。重点項目として、他者や地域とのつながりの増加、持続的なにぎわいの増加を重視する。KPI の案として、市民・来街者のアウトカムには認知率、訪問意向率、来場者数、推奨率を、拠点のアウトカムには異分野との連携企業やプログラムの数、遊休地の活用事例数、総来場者数に占める初来場者数の割合、公費の割合、民設民営の拠点の数、プロジェクトの実施数を設定している。説明は以上である。
野口課長	○1点だけ補足させてほしい。最後のKPI の案について、独自調査は横浜市が一括で行い、各拠点には来場者数等の集計のみ協力をお願いする予定である。過度に拠点の負担にならないように考えている。
岡部委員長	○ありがとうございます。先ほどと同様で、事業評価分科会の菅野議長もいらっしゃるの、補足や御意見をいただければと思う。
菅野議長	○先ほどコメントしたが、数値的な目標や達成目標が明確になり、KPI も

	<p>明確になっている。独自調査で横浜市の負担が増えるかもしれないが、文化芸術活動なので、数字が独り歩きしないように定量調査とナラティブ評価を重視し、プロセス評価もモニターして結果だけを見ないようにしていただきたい。数字だけで判断しないように、定性評価も勘案して練り上げてほしい。</p>
岡部委員長	<p>○では、質疑、意見交換に移る。皆様いかがか。1つ質問がある。ロジックモデルの市民、来街者は拠点に来ている人たちに対してか、それとも拠点以外の全ての人たちか。</p>
野口課長	<p>○市民の中でも、創造的活動への興味関心の裾野を広げたいという趣旨である。逆に創造的活動、担い手としての意識が芽生える部分は、既に何かしていてもっと自分でもやりたい人たちを対象にしている。</p>
岡部委員長	<p>○最終アウトカムが行動やアクションを生み出すために拠点が何をするかということだと思っていたが、拠点は拠点であるのかという見方もあるのかと思った。</p>
野口課長	<p>○創造限界拠点事業のモデルなので、拠点があることよっての効果全体にかかっている。市民、来街者の欄も拠点があることよってこうなるというイメージである。</p>
恵志委員	<p>○個人が自分の行っている創造的活動をどう捉えるかが重要である。創造的活動をしている市民という意識のムーブメントが起これないと、ただの体験になってしまう。創造都市の全体像を強く打ち出す必要があると感じている。</p>
岡部委員長	<p>○確かに難しい。</p>
恵志委員	<p>○難しいところであるが、卵が先か鶏が先かのような問題である。</p>
伊藤係長	<p>○これまで創造的活動というとアーティストやクリエイターの活動という印象が強かったが、市としてはもっと幅広いものと再定義し、拡張させる必要がある。自分の行為がクリエイティブだと実感してもらう手法については、委員会の皆様と意見を出し合いながら考えていく必要がある。</p>
木村委員	<p>○今のお話私のほうからもいいか。ロジックモデルを見ながら考えていたが、シビックプライドの向上が創造都市施策の目指す姿の1つだと思う。市民が創造的活動に関与する際、まずは消費者として質の高い消費を選択し、能動的に消費することが重要である。全ての人々がクリエイターになる必要はなく、様々な選択肢を知り、プロフェッショナルな人たちと関わることでまちの豊かさが生まれる。市民や来街者が能動的にアクションを起こすことを過剰に評価するのではなく、創造的活動がどれだけ市民に認識されているかをチェックすることが重要である。全ての人々がクリエイターになる必要はなく、能動的に選択できる社会がウェルビーイングの向上につながる。拠点がプロフェッショナルやセミプロフェッショナル、若いクリエイターを定着させ、外から迎え入れることで都市のプレゼンスが向上する。拠点と我々が</p>

	<p>認識を共有し、評価に盛り込むことが重要である。</p>
岡部委員長 伊藤係長	<p>○確かに全員にアクションを強いる必要はないと思う。</p> <p>○木村委員の御指摘のとおりである。アーティストやクリエイターになることを目指すのではなく、日常の行動が創造的活動だと気づいてもらい、生活が豊かになることが重要である。それを支える人材も定着させ、次の世代を育てる必要がある。</p>
岡部委員長	<p>○クリエイティブな消費者やアクションをする人の具体的なイメージを共有する必要がある。例えば、ももいろクローバーZのファンが宿をきれいにして帰るといった価値観はクリエイティブな行動の一例である。</p>
恵志委員	<p>○消費者としての市民がアートを体験することから物を創造することまで、創造的活動の捉え方が重要である。シビックプライドが上がることでまちの価値を高め、横のつながりを生むことにつながる。各拠点の人たちに創造的活動が人を変える効果を出してもらい、市でまとめることもいいのでは。</p>
宮尾委員	<p>○先ほど事務局から、創造界隈の活動を理解していただけるようなパンフレットを作成中という話があったが、具体的にはどんなイメージ、スケジュールで考えられているか。</p>
野口課長	<p>○実はもう市の職員側で編集が終わり、印刷に出している状況である。3月中には印刷物として上がってくる。</p>
宮尾委員	<p>○なぜ聞いたかという、創造界隈拠点のブランディングや市民への伝え方の骨子がパンフレットに入っていると、議論がクリアになると思った。</p>
野口課長	<p>○ありがとうございます。画面共有しているのを御覧いただけるか。企業や他都市の視察をイメージして、事業の概要や各拠点の中身を説明するパンフレットである。全12ページで、BtoB寄りの冊子である。市民向けにはもう少しかみ砕いたものを来年度検討する。</p>
宮尾委員	<p>○ありがとうございます。こういうものをつくるゴールがあると、言語化もしやすく、結論がつけやすいと思った。</p>
伊藤係長	<p>○ありがとうございます。現時点では細かい目標値は議論できていない。スケジュールとしては、5月中旬に第1回委員会を開催し、調査の概要を進め、6月以降に調査を実施する予定である。過去のデータを踏まえた目標値を設定する。</p>
宮尾委員	<p>○それらの数字は各拠点に共有されているか。</p>
伊藤係長	<p>○横浜市の結果は公開されているが、どのレベルまで共有されたかは不明であるが、調べれば分かる状況である。</p>
宮尾委員	<p>○分かりました。担当拠点を持つ際にデータが欲しいと思い質問した。</p>
杉崎氏	<p>○市民、来街者という言葉がぴんとこない場合、生活者という言葉を使うと分かりやすいかもしれない。生活者が主語になると、最終アウトカムの一部はフィットするが、他の部分は整理が必要である。創造都</p>

	<p>市施策の評価は他の政策と区別できるようにする必要がある。拠点の変化については、協働型やプラットフォーム型の評価が重要である。プロデューサーやコーディネーターの役割を理解してもらう必要がある。インプットの段階で公共空間活用などを設定しないと、アウトカムにつながらないので、事業計画での設定が重要である。</p> <p>議論が整理され、ようやくこういう議論ができるようになったと感じる。</p>
岡部委員	○拠点だけの評価ではない委員会にしていく必要がある。もとの20年前の委員会のように。
杉崎氏	○ただ、10年間ぐらいはそういう形であった。
野口課長	○創造界限形成に関する議論を行う委員会である。創造都市施策と創造界限形成は別々に考えられており、形成部分を議論する場が委員会の趣旨である。政策の議論も可能であるが、所掌範囲は慎重に検討する必要がある。
杉崎氏	○次年度は前段の話を盛り込むべきであると思う。現状では拠点の存在だけを示しており、具体的なアクティビティやシビックプライド、ウェルビーイングへのつながりが見えない。ロジックモデルを深掘りし、次年度に向けて改善する必要がある。
	これは拠点の当事者性の部分で、拠点プラス横浜市とすると、またちょっと違う形になる。
岡部委員長	○確かにそうである。拠点だけではないと僕も思っていた。
杉崎氏	○拠点だけだとできないことが多いので、拠点プラス横浜市がコラボレーションして目指す部分が下段にある。当事者性を少し変える、表現を加えることで見え方が変わると思う。
岡部委員長	○また御議論いただければと思う。では、皆さんよろしいか。
宮尾委員	○今の話だが、次年度と言わず、今からやれないものか。
岡部委員長	○あと数日。
野口課長	○あと1週間ぐらいである。
宮尾委員	○次年度のいつまでにやるかを決めるのはどうか。皆、やったほうがいいと思っている。拠点の方々も大変だと思うので、委員も含め汗をかいて早めに一緒にやれたら良いのかなと思ったが。
野口課長	○分かりました。現実問題を言うと、郊外展開で市民の方と直接会うような場面で必要性をいつも感じる場面はある。恐らくそれが発生してくるだろう夏ぐらいには仕上げたいなという気持ちはございますので、ちょっと頑張ってまとまれば、最初の委員会で御相談させていただければと思う。いかがか。
宮尾委員	○何かできることがあれば一緒にやっていきたい。
野口課長	○ありがとうございます。
岡部委員長	○では、審議事項(3)については了承としてよろしいか。

(了承)

岡部委員長	○では、了承とする。菅野議長がここで御退席ということである。ありがとうございます。
菅野議長	○ありがとうございました。どうぞ皆様よろしく申し上げます。失礼する。
岡部委員長	○では、5分休憩 (休憩)
	審議事項(4)令和7年度の委員会について
岡部委員長	○では、再開する。では、審議事項(4)令和7年度の委員会について、事務局から願います。
伊藤係長	○まず、分科会の審議に係る意思決定方法について説明する。現行のルールでは、横浜市の委員会運営要綱第7条第3項により、分科会のみでは意思決定を行うことができず、委員会の議決が必要である。来年度から委員会の負担が増加することが予想されるため、分科会での決定事項を委員会の意思決定とみなすように見直しを検討している。具体的には、委員会が事前に承認した場合、分科会での決定をそのまま公募に進めるプロセスに変更する。改正内容として、「事前に委員会から承認を得た場合は、委員会の審議を経ることなく意思決定を行うことができる」という規定を追加する。以上である。
岡部委員長	○ありがとうございます。それでは、皆さん、質問や意見があれば願います。意見や質問がなければ、次に進みたいと思うが、よろしいか？ (了承)
岡部委員長	○では、了承とする。次に、令和7年度の委員会体制について事務局から願います。
伊藤係長	○令和7年度の委員会体制について説明する。 年度の体制であるが、今年度で野原委員が退任されるため、後任として神奈川大学の山家先生が就任する。また、拠点の担当制については、正副の担当で実施し、委員の専門性を踏まえた分担とする。郊外部展開については、岡部委員長を中心に各委員の専門性に依拠して相談する。担当の主な業務として、上半期の進捗や課題を議論する中間振り返りと、年度末の振り返りと来年度の計画を議論する2回の会議を予定している。来年度のスケジュールは以下の通りである。: 5月：令和6年度の事業評価の確定、新高島の評価シートの確定、象の鼻の活用方針の議論、調査の概要報告。 8月：星川の運営事業者の決定、旧第一銀行の評価シートの確定、調査結果の速報、急な坂のサウンディング調査の概要説明。 11月：中間の振り返り、調査結果の報告、象の鼻の運営事業者の決定、急な坂サウンディング調査の結果報告。 3月：今年度の振り返りと来年度の計画の承認、事業全体の評価。 以上である。
岡部委員長	○ありがとうございます。では、質疑・意見交換に移りたいと思う。ご

	意見がある方は挙手をお願いする。
宮尾委員	○委員の正と副の役割イメージはどのようなものか。
伊藤係長	○基本的には正の委員が中心となって拠点に足を運び議論するが、複数の視点を取り入れるために副も割り当てている。
宮尾委員	○正副2人で事業者とミーティングを重ねるのはスケジュール調整が大変であり、正の委員が1人で向き合う方が動きやすいのではないかと思う。皆さんの意見を伺いたい。
岡部委員長	○正の委員が担当として話したり助言したりする。
宮尾委員	○副の役割が曖昧だと気を遣うので、クリアにした方が良いかもしれない。
恵志委員	○私は急な坂を担当していたのでよく分かるが、複数の拠点を知ることによって横の連携がしやすくなると思う。
宮尾委員	○了解した。ありがとうございます。
木村委員	○担当拠点の視察・ヒアリング・助言のタイミングや頻度はどのくらいを想定しているか？日常的な活動を視察するために、拠点から直接案内をもらう方が良いのではないか。視察時にディレクターと話すことも含めて考えて良いか？
野口課長	○年度末の自己評価に関する拠点と委員との議論はオフィシャルになるが、それ以外は適宜必要に応じたコミュニケーションを取っていただければと思う。委員には拠点から直接案内が行くルートを作り、全拠点のイメージは横浜市から定期的にお届けする。担当拠点以外でもタイミングが合えば足を運んでいただけるとありがたい。
伊藤係長	○報酬の支払いについては、委員会で意思決定された視察に対してのみ支払いが可能である。その他の視察には報酬を支払うのは難しい状況である。
岡部委員長	○オフィシャルな視察の頻度についてであるが、正の委員が基本的に受け持ち、副の委員は比重を抑えめにするという感じであるか。やってみて調整する形になるかと思う。
恵志委員	○正でも副でも仕事は仕事として整理されているということか。
宮尾委員	○正の委員がしっかり絞り込んで担当し、年に4日の委員会以外に分科会で情報交換する形が良いと思う。オンラインでも可能である。
岡部委員長	○頻度の問題。
宮尾委員	○関わってきた期間によって理解度が違うので、まず1つの拠点をしっかり知り、委員同士で情報交換する形が良いと思う。もちろん、やりながら調整しても良い。
岡部委員長	○正副の役割についてであるが、基本的には正の委員が拠点とコミュニケーションを取ることを最優先し、打合せの日程が決まったら副の委員にも情報共有し、可能であれば参加してもらいたい形が良いのではないかと思う。
岡部委員長	○そのほうが実現可能性が高まりそう。

宮尾委員	○了解した。
伊藤係長	○拠点が実施しているイベントや情報については、副の委員にも案内が届くようにする。
岡部委員長	○まずその体制で進め、問題があればまた変更する形でのよろしいか。 (了承)
岡部委員長	○ありがとうございます。では、こちらの形で進める。他にご意見がなければ、本件は了承とする。 (報告事項：BankART1929との連携について)
伊藤係長	○続いて、報告事項としてBankART1929との連携について事務局より説明します。BankART1929は、横浜市が創造都市施策をスタートした20年前に現代アートの風を吹き込んだパイオニア的存在である。長年にわたり創造都市横浜を牽引し、多くのアーティストやクリエイターを横浜に根づかせ、豊富なネットワークの形成に貢献してきた。 そこで、横浜市とBankART1929が共に培ってきたノウハウやネットワークを活用し、創造都市施策を推進するパートナーとして連携を強化する。具体的には、4月1日施行で連携協定を締結する。連携事項は以下の5項目である： <ul style="list-style-type: none"> ・現代アートを中心とした企画の立案 ・まちづくりに関すること ・創造的人材の集積や連携 ・創造的活動へのコーディネート ・その他文化芸術創造都市横浜の推進に関すること この連携を背景に、新しい企画を市と一緒に実施していく。以上である。
岡部委員長	○ちなみに期間は。
伊藤係長	○基本1年間であるが、自動延長という形で考えている。
岡部委員長	○では、こちらは報告事項ということで、これで終了ということでのよろしいか。 【委員御挨拶】
岡部委員長	○野原委員が退任されるため、本日は欠席だが、メッセージが届いているので事務局から読み上げます。
伊藤係長	○本日は年度最後の重要な委員会に出席できず申し訳ありません。10年以上にわたり、横浜市独自の創造都市政策に関する委員会に参加できたことを誇りに思う。お世話になった皆様、ありがとうございました。創造都市施策は、市民や市関係者の指針や態度とも言えるもので、解決困難な社会課題に対してクリエイティブな知恵と工夫で乗り越えることが求められる。具体的な内容は時代ごとにも変わっても、常にポジティブでクリエイティブな態度と知恵で工夫を出し合うことが大事である。短期的な成果だけでなく、中長期的かつ総合的な成果を考えることが重要である。創造都市施策の価値と魅力を実感を持って伝え、

	<p>岡部委員長</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>仲間を増やし、大切にすることで、豊かな創造都市の取り組みが広がることを願っている。長い間ありがとうございました。創造界限形成推進委員会、野原卓</p> <p>○ありがとうございます。野原さんがいないことは残念であるが、引き続き助言やアドバイスをいただければと思う。ありがとうございました。では、議事は全て終了したので、進行を事務局にお戻しする。</p> <p>【事務連絡】</p> <p>○長時間にわたり、年度末のお忙しい中、ありがとうございました。本日の議事録は事務局で作成し、皆様にお送りするので、内容の確認をお願いします。また、次回の委員会は5月中旬から下旬頃に開催予定なので、改めて日程調整をお送りする。</p> <p>○これをもって、令和6年度第5回横浜市創造界限形成推進委員会を終了する。委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。</p>
<p>資 料</p>	<p>①次第</p> <p>② [資料1] 委員名簿</p> <p>③ [資料2] 前回議事録（令和6年11月13日開催分）</p> <p>④ [資料3] 令和7年度事業評価シート</p> <p>⑤ [資料4] 令和6年度事業評価シート</p> <p>⑥ [資料5] 創造界限形成事業の評価指標について</p> <p>⑦ [資料6] 令和7年度の委員会について</p> <p>⑧ [資料7] BankART1929との連携について</p>	
<p>特記事項</p>		